

敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

令和元年度



敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター

はじめに

地域・在宅ケア研究センターは、地域の人々の健康を守り、安心して暮らせることを目指し、地域とのかけはしとなって教育や研究を推進することを目的に設立されました。地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究活動を模索し、本年度で設立から6年目を迎えました。

地域住民の健康と幸せづくり活動を願って「身体を使って健幸になろう」というテーマのもとに、4回の看護大学健康講座を企画しました。しかし、新型コロナウイルスの関係で、令和2年3月に計画していた健康講座は延期せざるを得なくなりました。3回実施した講座には合計168の方が参加してくださり、講演や体力チェック、健康相談を通して交流させていただきました。健康講座のテーマを積極的に広報したことにより、内容に関心をもって参加してくださる方が増えてきました。また、大学という場に来ることが楽しみという嬉しい声も聞いております。

研究支援活動として、地域の看護職を対象に、研究入門講座や研究サポートを行いました。看護研究入門講座は3回（7講座）計画しましたが、これも新型コロナウイルスの関係で、令和2年3月に計画していた講座は中止しました。今年度は、レイクヒルズ美方病院からも参加してくださり、延べ31の方が参加してくださいました。また、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的として第3回研究報告会を開催いたしました。今年度の報告数は、大学教員が6題、本学の学生が1題、敦賀市内の医療機関が9題でした。この場が、学生の学びにもなってほしいと願っています。

また、地域で開催されるイベントなどには積極的に学生や教職員が参加し、地域の方々と交流しました。

以上のような取り組みを通して情報収集をし、敦賀市民の健康に資することができるような研究センターを目指したいと思っています。

令和元年度の活動報告書を作成しました。活動方法や内容について、皆様のご意見やご助言をいただき、今後に活かしていきたいと思っております。

令和2年3月
地域・在宅ケア研究センター長

畑野 相子

目 次

はじめに

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要・・・・・・・・・・ 1

1. 研究センター設置の目的
2. 研究センターの事業
3. 組織構成

II. 教育・・・・・・・・・・ 3

1. 看護研究方法論講座
 - 1) 令和元年度看護研究入門講座
 - (1) 講座内容
 - (2) 講座受講者の状況
 - (3) 入門講座に対する評価
 - (4) 講座総括
 - 2) 研究サポート事業
2. 看護大学健康講座
 - 1) 令和元年度看護大学健康講座事業の実績
 - 2) 看護大学健康講座まとめ
 - 3) 美浜町事業への協力
3. 出張講演

III. 研究・・・・・・・・・・ 1 3

1. 研究報告会
 - 1) 概要
 - 2) 内容
 - 3) 評価
 - (1) 一般参加者のアンケート結果
 - (2) 学生参加者のアンケート結果
 - (3) 今後の課題
2. 敦賀市民の健康に関する情報収集
 - (1) 事業の概要
 - (2) 結果
 - (3) 敦賀市との意見交換
 - (4) まとめ

IV. 地域活動・・・・・・・・・・ 2 3

1. ボランティア等への参加
2. 地域行事等への参加

添付資料

- 資料1 看護方法研究論講座 実施要領・・・・・・・・・・ 2 5
- 資料2 敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項・・・・・・・・・・ 2 6

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 研究センター設置の目的

地域・在宅ケア研究センター（以下「研究センター」という。）は、公立大学法人敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。

地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めます。

また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与します。

2. 研究センターの事業

研究センターの事業は地域住民の健康づくり、在宅支援などによる地域貢献、学生の学習活動と地域との連携や看護職の看護実践能力・研究能力支援のための教育、地域の健康評価における健康ニーズ調査などの研究を行います。教育、研究、地域貢献の事業内容は図1に示しました。

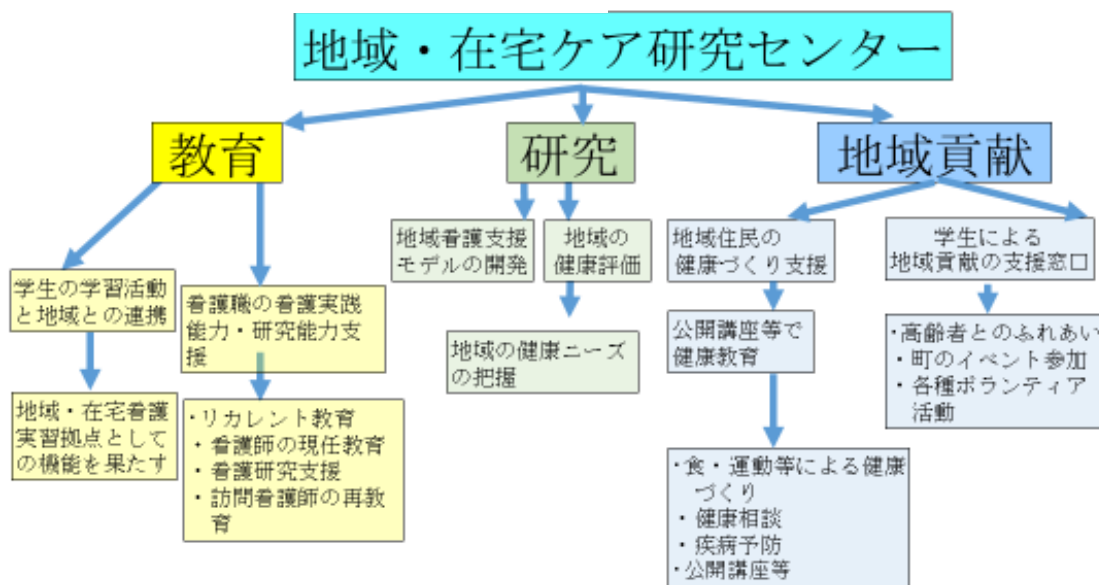


図1 地域・在宅ケア研究センターの事業内容

3. 組織構成

研究センターの位置付け（本学組織図の抜粋）を図2に示しました。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員です。

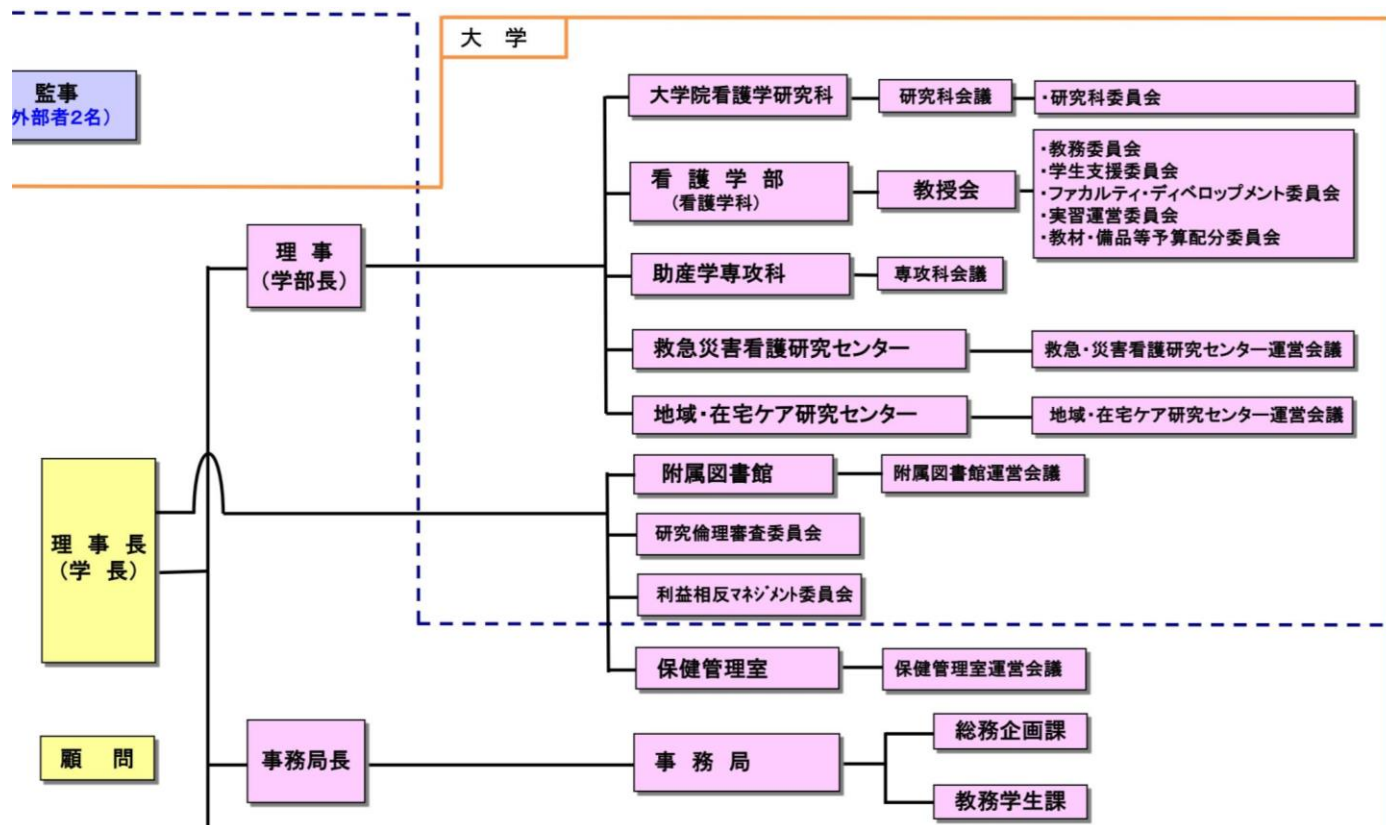


図2 地域・在宅ケア研究センターの組織構成

Ⅱ. 教育

1. 看護研究方法論講座

1) 令和元年度看護研究入門講座

(1) 講座内容

本学において、看護研究入門講座を3回(7講座)予定していましたが、新型コロナウイルスの関係で令和2年3月に予定していた3回目の講座を中止しました。

講義の日時、内容、担当教員名を表1-1に示しました。

表 1-1 令和元年度 看護研究入門講座概要

		内 容	担当教員
1 回目 (2 月 8 日)	①13:00～13:20 (20 分)	オリエンテーション① 本講座のねらい、目標について	畑野相子
	②13:20～14:00 (40 分)	看護研究の概要と研究課題について	交野好子
	③14:10～15:10 (60 分)	文献検索の方法	池原弘展
	④15:20～16:20 (60 分)	文献のクリティーク	吉川由希子
2 回目 (2 月 15 日)	⑤13:00～14:20 (80 分)	研究の種類・量的研究	池原弘展
	⑥14:30～15:50 (80 分)	研究の種類・質的研究	家根明子
	⑦15:50～16:20 (30 分)	オリエンテーション② 研究計画書作成に向けて	畑野相子
3 回目 (3 月 7 日) (中止)	⑧13:00～14:00 (60 分)	研究の倫理と倫理審査	北村隆子
	⑨14:00～14:10 (10 分)	今後の進め方について	運営委員他
	⑩14:20～ (120 分程度)	研究計画書の作成に向けて グループワーク・個別相談	

(2) 受講者の状況

① 施設別受講者数を表 1-2 に示しました。

表 1-2 令和元年度 看護研究入門講座参加状況

施設名	講義日			参加者 延べ数
	2月8日	2月15日	3月7日	
敦賀医療センター	4	3		7
市立敦賀病院	0	2		2
公立小浜病院	5	8		13
レイクヒルズ美方病院	3	3		6
合計	12	16		28

② 受講者の属性について

・受講動機（複数回答可）

	人数	%
研究について学びたい	7	26.9
周囲に勧められた	3	11.5
仕事上研究しないといけない	16	61.5

・講座終了後のゴール（複数回答）

	人数	%
院内発表	13	48.1
学会発表	2	7.4
論文作成	2	7.4
今後に生かす	10	37.0

・経験年数

	人数	%
1～4 年	10	52.6
5～9 年	3	15.8
10～14 年	1	5.3
15～19 年	2	10.5
20～24 年	2	10.5
25～29 年	1	5.3
30 年以上		0.0

・職種

	人数	%
看護師	19	100.0

・役職

	人数	%
管理職	2	10.5
主任	1	5.3
チームリーダー的役割	1	5.3
スタッフ	15	78.9

・研修会に出た経験

	人数	%
あり	4	21.1
なし	15	78.9

・研修会を受けた機関（複数回答）

	人数	%
院内・職場内	1	20.0
大学・短大・専門学校等の講義	1	20.0
本学	2	40.0
その他（不明）	1	20.0

・看護研究への取り組みの有無

	人数	%
経験あり	6	31.6
経験なし	13	68.4

・看護研究に取り組んだ件数

	人数	%
1 件	4	66.7
2 件	0	0.0
3 件	1	16.7
4 件	0	0.0
5 件	1	16.7

（３）入門講座に対する評価（参加者へのアンケートの単純集計結果）

①2月8日の講座内容について

<全体を通した難易度>

	人数	%
とても難しかった	0	0.0
難しかった	7	58.3
ちょうどよかった	5	41.7
やさしすぎた	0	0.0

<講義は参考になりましたか？>

	人数	%
大変参考になった	5	41.7
参考になった	7	58.3
あまり参考にならなかった	0	0.0

<参考になった、もしくはならなかった具体的内容>

- ・看護研究について
- ・文献の調べ方、種類、読み方
- ・研究について学習したことがなかったので、どの講義もとても参考になりました
- ・基礎的なことが分かった
- ・文献の調べ方が分かって参考になった
- ・文献の見方が分かった
- ・文献検索の方法
- ・研究の概要については、具体的な事例を用いながら講義して下さり分かりやすかった

文献検索、クリティークについては少し難しかったです

- ・4～5年前に看護協会の方の主催指導のもとで研究を行いました。その時よりも簡単にパソコンから論文を検索する事ができたことに驚きました
- ・研究とは…？から講義をしてもらい大変学ぶ事が多く参考になりました
- ・普段、大学の講師の方とはご縁がないのですが、各々面白かったです
- ・論文の読み方、文献検索方法

②2月15日の講座内容について

＜全体を通した難易度＞

	人数	%
とても難しかった	2	12.5
難しかった	11	68.8
ちょうどよかった	3	18.8
やさしすぎた	0	0.0

＜講義は参考になりましたか【量的研究】＞

	人数	%
大変参考になった	3	18.8
参考になった	9	56.3
あまり参考にならなかった	2	12.5
回答なし	2	12.5

＜参考になった、もしくはならなかった具体的内容【量的研究】＞

- ・言葉が難しく、理解しにくかった。
研究資料も難しかったので、むすびつきにくかった
- ・内容の理解が難しかった。文献クリティークの大切さは分かった
- ・研究をすすめるにあたり、注意点や特徴について参考になった
- ・数値で表す（解釈する）研究なので行いやすい感じがした。はっきりしてわかりやすい
- ・量的研究がどういうもので必要なこと、進め方などが参考になった。統計などが難しくよく分からなかった。
- ・具体的に、何をどうして集計等を行えばいいか分かった
- ・具体的な研究の取り組みにつながらなかった

＜講義は参考になりましたか【質的研究】＞

	人数	%
大変参考になった	4	25.0
参考になった	10	62.5
あまり参考にならなかった	1	6.3
回答なし	1	6.3

＜参考になった、もしくはならなかった具体的内容【質的研究】＞

- ・分かりやすい言葉で入りやすかった。資料も具体的に分かりやすかった。
事例もわかりやすかった。
- ・質的研究とはどのようなものなのか、大まかに理解できた。
研究の進め方も少しわかった気がした。
- ・特徴やインタビューガイド作成について参考になった。
- ・難しい。
- ・質的研究がどういうものかイメージはついた。
種類別にどういった方法で行い、あらわしていくかイメージが分らなかった。

- ・具体的な流れを学べた。初めての看研なので、大変助かったという思いと、このように考えてやってみようというビジョンがみえた。
- ・カテゴリー化について理解できた。

<講義やその他についての意見>

- ・資料は事前に渡して頂けると、次回理解しやすいと思いました。事例を読むのも、時間が限られていて焦りました。
- ・嶺南の大学で身近に講義を受けることができ有り難く思います。

(4) 講座総括

参加者は、看護師が 100%で、経験年数は 10 年未満の方が 73.7%を占めており、昨年度 (62.5%) よりも若手の参加が多かったです。

また、79%が研究に関する研修会に参加した経験がなく、参加者の 68%が看護研究に取り組んだ経験がありませんでした。これは昨年度の約 2 倍の割合となっており、本講座が、市内の医療機関の看護師の研究に関する入門の研修会の場合として認識・活用されていることが強く伺えます。

講義全体を通した難易度について、「とても難しかった」「難しかった」と回答した割合は、2 月 8 日が 58% (前年度 48%)、2 月 15 日が 81% (前年度 54%) であり、前年度よりも講義を難しいと感じた受講者が多くを占めました。講義を担当した講師は前年度と同じで、講義内容の見直しを適宜行なっていますが、受講者により反応は様々です。入門講座は、研究を行う上での基礎知識を学習する場としての意味はあると考えます。

一方で、2 日目の講義について、数人ではありますが「あまり参考にならなかった」という意見がありました。そのような感想の背景に何があるのか検討していく必要があります。具体的には、入門編だけではなく、より実践的な内容の講義を求めているのか、あるいは、自分が計画している研究にマッチしなかったのかなどが考えられます。今後、本講座をどのように展開させていくかが課題であると考えます。

昨年度から対象地域を嶺南地域に拡大したことで、今年度はレイクヒルズ美方病院からの参加もありましたが、全体としては例年程度の参加人数にとどまりました。敦賀市内からの参加者が少ない状況です。講座についての周知方法を検討することも課題として見えてきました。

2) 研究サポート事業

講座受講後、研究指導申し込みが6件あり、研究サポートを行いました。6件とも国立病院機構敦賀医療センターからの申し込みでした。研究成果は、令和2年1月30日（木）～1月31日（金）に国立病院機構敦賀医療センターで開催された発表会で報告されました。研究テーマ、発表者、担当教員を表2-1に示しました。

表 2-1 令和元年度 研究指導実績

No.	テーマ	施設名	発表者	担当教員
1	終末期患者や家族の意思決定に向けた看護師のかかわり ～ACPを行った患者・家族へのアンケート調査を通して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【2階病棟】	福尾 美帆 梅津 智美 小島 正義 加藤 莉夏 柴田 益佳 金谷 繁美 中川 真理 石田喜美子	家根 明子
2	病棟看護師による FIM を用いた ADL 評価 ～FIM 評価基準の見直しを試みて～	国立病院機構 敦賀医療センター 【4階病棟】	出口 真衣 宮川 佳枝 小野 遥 園田有貴江 松村 恒	木谷 尚美
3	全身麻酔患者に対する看護師の術前口腔 ケアの実態調査	国立病院機構 敦賀医療センター 【手術室】	小西 希 矢野麻利江 稲垣 リサ 杉山 由美	山崎加代子
4	重心病棟における VP シヤント離断により意識レベルの低下をきたした患者への看護	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟3】	清水太久真 脇坂 一葉 坂野 有紀 嶋田 文枝 田端美津子	吉川由希子
5	整形外科急性疼痛患者の食事時の体位についての考察	国立病院機構 敦賀医療センター 【3階病棟】	吉村 翼 岡村真奈美 田中 祐太 野村 亜美 本間みどり	伊部 亜希
6	ショートステイを利用する重症心身障害児（者）の家族の現状とニーズ	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟1】	福田 実香 渕田 明梨 森崎 真由 近藤 好美 市元あゆみ	吉川由希子

2. 看護大学健康講座

看護大学健康講座の概要

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気楽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成 27 年度 3 月から「看護大学喫茶」を開始してきました。平成 30 年度からは、講演をメインにした内容として、名称を「看護大学健康講座」として実施しています。内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック（体力測定）・健康相談です。

令和元年度は、住民の健康と幸福を願って「身体を使って健幸になろう」というテーマで看護大学健康講座を企画しました。

1) 令和元年度看護大学健康講座事業の実績

令和元年度は、3 回開催しました。概要を表 1 に示しました。

表 1 開催状況と参加者数

日時	場所	内容	従事者	参加者	備考
第 1 回 7/13(土) 10:00- 12:00	本学	①講演「健康は足から」 北村 隆子 教授 ②健康チェック ③健康相談 ④喫茶コーナー	7 名 ・教職員 7 名	51 名	
第 2 回 9/7(土) 10:00- 12:00	本学	①講演 「色々な視点からの介護予防」 横山 浩誉 講師 外部講師 健康運動指導士 外部講師 歯科衛生士 ②健康チェック ③健康相談 ④喫茶コーナー	12 名 ・教職員 6 名 ・学生 6 名	21 名	
第 3 回 11/3(日) 10:00- 12:00	本学	①体験コーナー 「心肺蘇生法の体験」 河合 正成 講師 災害・救急分野専攻学生 ②健康チェック ③健康相談	13 名 ・教職員 7 名 ・学生 6 名	96 名	大学祭と 同日開催
第 4 回 (延期)	本学	①講演 「笑いは心身の栄養素」 畑野 相子 教授 ②健康チェック（体力測定） ③健康相談 ④喫茶コーナー	新型コロナウイルス対策のため延期		

2) 看護大学健康講座まとめ

前年度より引き続き、講演を主とした「看護大学健康講座」に名称を改め、3回開催しました（第4回目は新型コロナウイルス対策のため延期）。講演テーマは「健康は足から」、「色々な視点からの介護予防」、「心肺蘇生法の体験」など多岐にわたり、幅広い年代の参加が得られました。また、講演に加え、個別の健康相談への対応が十分にでき、満足度は高く、参加者全員から、参考になったと高評価も得られました。参加者数は、3回ともに前年度より増加しました。次年度は、住民に幅広く健康に関心をもっていただくために、参加者をいかに増やすか、さらにリピーターを増やすことが課題です。課題解決に向け、次年度も引き続きテーマに応じて、①チラシを効果的に配る、②開催日および時間帯を再考する、③チラシ等に大学へのアクセス方法についての情報を追記する等、参加者増に向けて取り組むこととします。また今年度も引き続き、学生がボランティアとして参加しました。学生の教育の場としての活用も継続していきます。

写真1 講演：健康は足から



写真2 講演：色々な視点からの介護予防



写真3 大学祭と同時開催「心肺蘇生法の体験」



写真4 <健康チェックコーナー>



3) 美浜町事業への協力（看護大学健康講座の位置づけ）

令和2年2月21日に、美浜町老人家庭相談員研修会に本学教員4人が参加しました。看護大学喫茶と称して実施されたこの研修会では、本学の木谷准教授が「おひとりさまで迎える認知症」をテーマに講演を行った後、日頃の活動に関するグループワークが行われました。参加者は美浜町老人クラブに在籍する老人家庭相談員約25名でした。グループワークでは、日頃の活動に関する情報交換を中心に、一人暮らしの高齢者を支える上での課題や悩み、民生委員や老人福祉員との連携における課題などについて活発に話し合いが行われなした。教員と一緒に参加し、必要時助言を行いました。

写真1 講演の様子



写真2 グループワークの様子



3. 出張講演

出張講演として、教員のそれぞれの知識と知恵を活かして、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設しています。講座テーマを提示し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでいただき、日時、場所等を調整したうえで実施しています。

令和元年度の実施状況を下記に示しました。

令和元年度 敦賀市立看護大学 出張講演実施状況

No.	実施日	対象団体	講演テーマ	講師	実施場所	受講人数
1	6月21日	美浜町健康づくり課	・認知症になってもじぶらしく暮らすための備え、予防 ・家族が認知症になった場合の対応	木谷尚美 准教授	美浜町佐田公民館	34
2	7月26日	美浜町健康づくり推進員	生活習慣病としてのがん、がん検診	喜多義邦 教授	美浜町保健福祉センター	35
3	9月11日	つるが男女共同参画ネットワーク	情報を生かした市立敦賀病院活用法	杉浦良啓 教授	敦賀市立看護大学	50
4	9月19日	敦賀市地域自立支援協議会在宅地域支援部会	地域で共に暮らし共に働く社会を目指して	長井麻希江 教授	二州青松の郷（敦賀市）	32
5	10月25日	中郷地区老人会	笑い与健康	畑野相子 教授	敦賀市中郷公民館	101
6	11月22日	美浜町健康づくり課	家族や近い人が認知症になったら？	木谷尚美 准教授	美浜町佐田公民館	23
7	12月19日	美浜町母子保健推進員	子どもの様子が変わったら	吉川由希子 教授	美浜町役場	9
8	2月5日	美浜町健康づくり課	健康は足から	北村隆子 教授	美浜町佐田公民館	30

Ⅲ 研究

1. 研究報告会

1) 概要

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、第3回敦賀市立看護大学研究報告会を開催しました（令和元年10月3日（木）14：00～17：15）。演題数は学内から7題（うち1題は本学3年生）、学外から9題、計16題の申し込みがあり、研究成果や実践報告の発表が口頭により行われました。想定以上の演題数となったため、休憩2回を挟む3部構成のプログラムとなりました。参加者は学生32名（学部生、大学院生を含む）、学外者24名（医療従事者、一般市民、行政・報道関係者を含む）、これに本学教員が加わり、盛況でした。アンケート集計結果や自由記載コメント等によれば、ほとんどの参加者は有意義であったと回答がありました。平日日中の開催時間については参加しやすかった（一般市民や学生）との意見がある一方、勤務時間との調整が難しく演者の会場入りがぎりぎりのケースや、演者以外の研究関係者の参加者が少ない医療施設もありました。今回初めて学生への聴衆参加を呼びかけましたが、参加は任意であったことから、想定以下の数にとどまりました。学生のアンケート調査からは多様な学びの項目が挙がっていました。発表内容に関する理解度に関しては、難しかったと回答した一般市民や学生が一定数いた一方で、多彩な研究内容があり勉強になったという意見も多かったです。

2) 内容

プログラムを表1に示しました。

表1 2019年敦賀市立看護大学研究報告会プログラム

	第1群(大教室) 座長		
14:05-15:00	開胸手術での手術部位感染サーベイランスの効果と感染のリスク因子	池原弘展	敦賀市立看護大学
	手術室看護師教育の探求 ～配属された看護師の思い・体験の分析から	矢野麻利江	国立病院機構 敦賀医療センター
	抗血小板薬シロスタゾールの 抗炎症作用メカニズムについて	山崎弘美	敦賀市立看護大学
	重度肩こりに対する超音波を使った 新しい注射ーハイドロリリースー	田尻和八	市立敦賀病院
	短時間認知行動療法に基づく看護面接が 不眠にもたらす効果(パイロットスタディ)	長井麻希江	敦賀市立看護大学
15:00-15:05	休憩		
15:05-16:10	第2群 座長		
	災害から命を守る健康づくり	浦咲月 若竹彩紗	敦賀市立看護大学
	退院支援パスの効果的な活用に向けた取り組み	川崎彩香	国立病院機構 敦賀医療センター
	退院支援への早期介入を目指した 情報収集シートの作成と評価	川瀬桃子	医療法人保仁会 泉ヶ丘病院
	一般病棟から地域包括ケア病棟への転入に伴う 患者の理解を明確化するための実態調査の試み	江南美紀代	国立病院機構 敦賀医療センター
	ファミリーサポートセンター事業における 病児・病後児対応の現状と アドバイザーの認識に関する調査	吉川由希子	敦賀市立看護大学
	当院における周産期メンタルヘルス スクリーニングの取り組み ～母子に寄り添う切れ目のない支援を目指して～	山本真貴	市立敦賀病院
16:10-16:15	休憩		
16:15-17:10	第3群 座長		
	産後1年半までの女性の血圧と体重の実態	窪田裕子	敦賀市立看護大学
	認知症サポート委員会による 身体拘束への取り組み	藤長真由美	市立敦賀病院
	回復期リハビリテーション病棟における 身体拘束廃止の取り組み	杉田綾子	医療法人保仁会 泉ヶ丘病院
	SMBG困難な高齢糖尿病患者への FGM活用と療養指導の変化	田中淳子	市立敦賀病院
	携帯超音波診断装置を使った妊婦における 下肢浮腫測定の定量化の試み	柳澤奈美	敦賀市立看護大学
17:10-17:15	閉会 講評		

3) 評価

(1) 一般参加者のアンケート結果

Q 1. 一般参加者の所属

	件数	%
①医療関係者	15	51.7
②一般市民	5	17.2
③その他	9	31.0 (行政(3名))
総数	29	100

Q 2. 研究報告会はどこでお知りになりましたか？

	件数	%
①施設内の広報掲示	5	16.7
②市の広報	3	10.0
③職場の上司	10	33.3
④その他	11	36.7 (発表者・大学 HP・大学教員・チラシ・RCN)
⑤記載なし	1	3.3

総数 30 100

*複数回答有 ②と④

Q 3. 研究報告会に参加されていたいかがでしたか？

	件数	%
①有意義だった	13	44.8
②まあまあ有意義だった	14	48.3
③有意義ではなかった	0	0.0
④記載なし	2	6.9
総数	29	100

Q 4 a. 開催時間は適切でしたか？

	件数	%
①午後からでよい	20	69.0
②午前が良い	4	13.8
③夕方以降がよい	2	6.9
④いつでもよい	2	6.9
⑤記載なし	1	3.4
総数	29	100

Q 4 b. 開催日は適切でしたか？

	件数	%
①平日が良い	16	55.2
②土日が良い	5	17.2
③いつでもよい	6	20.7
④記載なし	2	6.9
総数	29	100

自由記述 (原文のまま、ただし一部修正)

【学びについて】

- ・色々な研究テーマでの発表で勉強になった (4人)。
- ・他病院での取り組みが分かり有意義だった。
- ・認知行動療法の発表を聞いた。
- ・テーマが幅広く、それが魅力でもあり欠点でもある。市民には難しかった。
- ・普段聞くことのできない職場の現状やデータを見ることができたこと、保健師業務を行って
いくうえで取り組みの内容を参考にできることから、有意義な時間でした。
- ・研究内容の専門用語が難しく、聞き取りにくいものがあつた。災害から命を守る健康づくり

の発表はとても地域に密着していて良い研究で勉強になった。

- ・難しいお話でした。半分もわからずです。でも薬に関する報告はなんとなくこの薬はこのようなことから、なんとなくわかりました。

【運営について】

- ・休憩時間が短い（2人）。
- ・簡単なレジュメがあると良い（3人）。
- ・口演が7分となっているのに、看護大学の方の発表が7分以上あった。7分以内にまとめていただけると、より良い運営ができるのではないかと思います。
- ・早口で発表される先生がおられました、スピードを下げてください。
- ・マイクの音割れがあって聞きづらかった。
- ・3部に構成されているので、自由に出入りできることが良かった。もし可能であれば、事前に演題も周知してもらえると勤務も調整できたかなと思いました。
- ・発表の際、次スライドが表示されていたので発表しやすかったです。

【その他】

- ・学生の多くの参加を期待します。

（2）参加学生のアンケート結果

Q1. 学年

- ①1年生（0人）
- ②2年生（0人）
- ③3年生（6人）
- ④4年生（19人）
- ⑤大学院生（6人）

Q2. 卒業研究・看護研究に向けて参考になったところがありますか？

- ①あった（27人）
- ②なかった（2人）

あった方は具体的に教えてください。

3年生：

- ・スライドの使用方法・レイアウト
- ・研究報告の枠組みの重要性
- ・研究の流れ・発表の流れ・形式が分かった。
- ・卒研発表のイメージがついた。

大学院生：

- ・目的とその方法の選択の大切さ
- ・災害対策として非難の迅速化を目的とするものがあり、健康作りがそれにつながることを知れて、新たな視点を得ることができた。
- ・研究方法の重要性を感じた。
- ・研究論文のまとめ方が具体的に参考になる。

4年生：

- ・発表形式やどのように明確に伝えるか
- ・発表のやり方や質疑応答の対応
- ・研究報告会の方法や流れを知ることができた。
- ・パワーポイントの作り方やパワポを用いた報告の方法について参考になった。
- ・卒業研究発表のイメージがついた。
- ・研究の集計方法を学ぶことができた。
- ・まとめ方・報告の内容・方法について参考になった。

Q3. 興味深かった内容がありましたか？

- ①あった（25人）
- ②なかった（3人）

Q4. 報告された内容は理解できましたか？

- ①どれもまあまあ理解できた（1人）
- ②理解できた報告もあった（26人）
- ③どれも難解だった（4人）

Q5. 次回以降も参加したいですか？

- ①ぜひ参加したい（11人）
- ②参加してもよい（20人）
- ③参加したくない（0人）

Q6. その他 感想など（原文のまま）

自由記述（学部学生）

- ・大学の先生が授業以外にしている研究の発表が聞けて貴重な経験になった。
- ・卒研の発表に生かしたい。
- ・研究の参考にしたい（2人）。
- ・貴重な体験だった。
- ・昼の開催で参加しやすかった。
- ・むづかしい内容や興味深い内容など様々だなと感じた。

自由記述（大学院生）

- ・自分の研究に生かしたい。
- ・様々な分野の研究報告があって、幅広い学びができた。
- ・自分の研究発表の参考になった。
- ・質疑応答で様々な視点が知れて面白かったのと勉強になった。

（3）今後の課題

今後の課題としては、参加者を増やすための工夫が必要です。学生に関しては開催前に複数の機会をとらえ周知の徹底を図ることが重要です。また一般市民および医療機関や行政関係者への周知はマスコミ、ポスター、チラシ（広報「つるが」を含む）等を活用します。日程（曜日や時間）についてはできるだけ発表者側の便宜を図ることも必要です。

2. 敦賀市民の健康に関する情報収集

1) 事業の概要

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、今年度は基礎資料を得るための情報収集を行いました。内容は以下の4つです。

- ① 敦賀市立看護大学ジャーナルに掲載されたうち、敦賀市を対象とした論文を整理する
- ② 看護大学健康講座での参加者の声を収集する
- ③ 地域・在宅ケア研究センター運営委員のメンバーが中心に行った、敦賀市民を対象とした調査結果をまとめる
- ④ 敦賀市と意見交換を行う

2) 結果

(1) 既存の文献整理

2015年から2018年の間で、敦賀市立看護大学ジャーナルに掲載された15件を対象としました。そのうち10件は特集記事でした。特集記事では「地域医療分野」「急性期医療分野」「保健・福祉分野」における医療と看護の現状が述べられていました。核家族化に伴う妊婦の不安、多様な生活習慣病、救急外来の不適切なかかり方、平均寿命の延伸に伴う認知症の人の増加、在宅で最期を迎えたいというニーズに応える終末期医療の不足等の課題をかかえていました。その中で、個人の自立した健康行動と同時に、健康を自然な形で支え合うまちづくりが提言されています。健康を支える立場である看護師の働く場が、急性期から療養や介護の場にシフトする中、それを担う訪問看護師を志す看護師が増えないことや、精神疾患や認知症を専門にしている看護師が不足しているといった医療・看護の人材不足も述べられていました。

(2) 看護大学健康講座での参加者の声

健康講座の参加者に各回でアンケート調査を実施しています（アンケート調査結果については、健康講座の項を参照）。ウォーキングやヨガなど健康づくりに取り組んでいる人がいる一方で、子育ての疲れ、腰痛といった健康上の気になることも記載されていました。今後に向けた要望として、肝臓のこと、特に食事法について知りたい、健康寿命を延ばす方法が知りたいといった声がありました。

(3) 敦賀市民を対象とした調査研究の結果

敦賀市民にアンケート調査を実施し、敦賀市民を取り巻く生活環境（自然環境、社会環境および地域とのかかわり：以下生活環境）と生活習慣・健康意識との関連を分析しました。595世帯に配布し、192世帯より回答を得ました（有効回収率32.3%）。調査した人数は342人でした。今年度は、10代、20～64歳、65歳以上の年代別3群の単純集計をまとめ、敦賀市に報告しました。また、中学生59人のデータについては、市内6中学校に報告しました。

各年代に共通する特徴として、間食をする人の割合が多い、イキイキ健活プラス1の認

知度が低い、花粉が健康に影響している人の割合が多い、地域への愛着があることでした。
また、20～64 歳において、運動習慣のある人の割合が、10 代、65 歳以上に比較して少ない
という結果でした。今後は生活環境と生活習慣、健康意識との関連を分析する予定です。

(4) 敦賀市民を対象とした調査研究から得られた市民の健康や生活に関する自由記載

【自分の健康に関すること】

<心がけていること>

(生活習慣)

- ・運動は充分にしている
- ・毎日ボケ防止のため、漢字 1 時間以上。それと並行して大声で歌う（1～2 時間）
- ・ガーデニング（晴れていれば 1 日 1 時間以上）
- ・ウォーキング 1 日 10000 歩程度
- ・なるべく簡単な筋トレをするようにしている
- ・暑さにとても弱いので熱中症にならないように気を付ける
- ・野菜を多くとる
- ・年間通して朝は 4 時半頃に起き、夜は 10 時半までに寝る
- ・残り 5 本の歯を大事にしていきたい
- ・やせたい
- ・夫がすい臓がんの手術をして 3 年が過ぎた。食事について気を使っている

(思い)

- ・ストレスをプラスに変えたい
- ・健康で充実した生活を心がけたい
- ・死ぬまで自分のことは自分でできる体でありたい
- ・年齢を感じるが、老いを受け入れながら残りの力で自分に与えられた時間を生きていく
- ・家族が健康で笑顔で暮らせるように心がけている。
- ・地域の皆様とともに健康管理しながらびんぴんころりを目指して努力したいと思っている
- ・現在のところ持病以外の病むところがないので、このままの生活を続けたい
- ・この年で病院も体もどこも悪くないので幸いです。健康で長生きしたい

<心配なこと>

(病気)

- ・パーキンソンの厄介な病に毎日大変な生活をしている
- ・変形性膝関節症で膝の痛みが出て長距離を歩けない
- ・変形性膝関節炎のため、運動量が少なく太り気味。買い物など、少し長い時間歩くと痛みがひどくなる
- ・10 年ほど前にこちらへ来てから甲状腺が悪くなり心配

(身体の不調)

- ・アルバイトをしているので仕事から帰ると動きたくなくなる
- ・疲れやすい
- ・体がだるい
- ・眠い
- ・もし貧血のような立ちくらみがあったらどのようになりにくくすればよいか
- ・腰がだるい
- ・加齢に伴う変化（歯が入れ歯になった、急にあちこち（眼、足、歯）が悪くなった、膝が痛い、歩幅が狭い）
- ・太りやすい
- ・あちこち痛かったり、疲れやすい（40代後半）
- ・受験なので寝不足になる日が多い。立ちくらみがよくある
- ・左手母指の付け根が痛む
- ・夫ががんで亡くなり生活が変化した。動くことが少なくなり肥満となり気持ちも落ち込んだ。少しずつ回復してきた。伴侶の死は想定していなかった
- ・忙しくて疲れて、肩こりもつらい。休みたいのに休めない
- ・子育てのストレスをなかなかすっきりさせることができず、頭痛など体調不良な事がある
- ・なかなか寝付けなかったり、途中で目が覚めたり、生活のリズムが崩れている
- ・よく眠れない

(心の不調)

- ・普段からストレスをためる性格なので、悩みも多い
- ・気づかいにも気を使って苦勞のひとつ
- ・ボランティアの仕事で悩むことがある

【将来の不安】

- ・高齢者2人暮らしで夫を介護している。介護保険を利用しているが負担の大きさを感じている。そのため、介護人が我慢してしまう。
- ・動けなくなったらと思うと不安
- ・農業をやっているので1年中せわしい。いつまでやれるか不安
- ・夫婦とも健康でいくつまでいられるか
- ・認知症にならないか心配
- ・2人暮らしが長くなり、子供たちは県外にいるため病気になったとき老老介護になり心配
- ・力になってもらえる親戚がいない。近所の知り合いも高齢
- ・体調が悪くなった際の家事と食事
- ・一人暮らしなので、不安を感じる
- ・現在父の介護をしているが、母も介護疲れか年々年老いてきて近々両親も介護状態になるだろうと思う。自分も仕事をしながらなので、体力的、精神的、経済的に大変で先が見えない。

【環境に関すること】

<医療機関の不足>

- ・敦賀は医療機関が乏しい。何かあれば福井市まで出向かなければならない。
- ・個人病院も少ない。
- ・嶺北と同じような医療機関の充実を希望
- ・年寄りの家庭なので、病で床につくことになれば通院が厳しくなる
- ・昔のように往診してくださる医師がいないので不安を感じる

<過疎化>

- ・地域の過疎化により人口がものすごく減少。このままだとさみしい

<アクセスの悪さ>

- ・コミュニティバスのダイヤ、病院にいけない
- ・車に乗れない高齢者は地区内に調剤薬局やスーパーのない今の状況をどう思っているのだろう
- ・買い物は車でなければいけない距離で、車は離せない

<コミュニティの不足、生活の不便さ>

- ・冬に気軽に歩けるところがない
- ・相生町のエフレがなくなって、地区内で生鮮食品を買えるところなくなり大変不便
- ・商店街も完全に屋根があるわけでないので、北地区でそういう場所を作してほしい
- ・運動したいができる環境が少ない
- ・街灯が少なすぎる

【気になること・要望・意見】

- ・都会の人に比べると愛煙家が多い
- ・共働きで時間にゆとりがない
- ・高齢者の運転「こわい」と思う経験がたびたびある。本当に車がないと生活できない敦賀なのか気になる。
- ・子供の学校のことで、雨の日や部活の大会で学校側が保護者の送迎をすすめること
- ・車を走らせる=環境に良いとは思えない
- ・<イキイキ健活>を実施していないことについて。週1回の運動では効果なし。「イキイキ健活」も実施されてから数年経過。リーダーが育っていない。いつまでも行政機関がやっているようではだめ。もう少し小さいブロックで高齢者も参加しやすいように考えないとダメ。現在のような公民館などで実施しているのでは足がないので参加できない
- ・1年に2~3回の地域として看護学生の健康に関する話、体力測定などの交流は意義があり、今後とも続けてほしい

- ・看護大学の先生の体験などの話、特に以前アメリカの医療事情について話を聞いたが、いかに日本の保険制度が素晴らしいか幸福を感じた。大変良かった
- ・ダンベル体操の指導は元看護大学の先生の指導によるもの
- ・高齢者に対するアンケートは、ただ単に用紙を渡して記入してもらうだけではだめ。
1項目ずつ説明して、時間を変えて書かないといけない。特に個ではなく集団の人をお願いするときは必要性を感じた
- ・パーキンソン病。1日でも早く日常生活に戻れるよう社会全体としての応援を望んでいます
- ・学生生活、特に不登校の子たちが増えているので気になっている

4) 敦賀市との意見交換

1回目は、令和元年8月に活動報告書をもとに、敦賀市健康センターに研究センターの事業概要を説明しました。活動報告書を健康センターで共有する旨の回答を得ました。内容等についての意見があればいただきたいと伝えました。

2回目は、令和2年3月5日に敦賀市健康センターの保健師と意見交換を行いました。敦賀市民を対象とした調査研究結果を報告し、今後も協働して敦賀市の健康課題の分析を行っていくこととなりました。また、敦賀市が抱えている課題として以下3点があげられました。①健康に関する知識の普及、啓発（例：イキイキ健活プラス1）に取り組んでいるが、継続的な、住民の主体的な実践につながっていない、②健康無関心層に関心を持ってもらうための工夫が必要、③健康づくりを地域で担うリーダーの養成が必要。これらの課題に向けた取り組みについても、大学との協働の可能性を検討していくこととなりました。

5) まとめ

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、今年度は基礎資料を得るための情報収集を行いました。今後も継続して情報の集積に努め、分析を深めることで、敦賀市の健康課題を明らかにしていく必要があります。それらをもとに、敦賀市と協働しながら、敦賀市に合った健康づくりの方法を考え、健康講座のテーマ等に反映していくことが求められます。

Ⅳ 地域活動

1. ボランティア等への参加

ボランティア等への参加状況及び年次推移を表 1-1、表 1-2 に示しました。

表 1-1 令和元年度ボランティア等参加実績

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6 月 2 日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生 28 名 教職員 6 名
2	8 月 12 日 ～14 日	第 31 回福井県小児糖尿病サマーキャンプ	福井大学医学部 小児科	福井少年自然の家	サマーキャンプ ボランティア	学生 7 名
3	10 月 1 日	めいほう祭り	明峰会	明峰クリニック駐車場	めいほう祭り ボランティア	学生 6 名
4	11 月 1 日	台風 19 号災害ボランティア	福井県	長野県長野市	泥のかきだし、 家財の片付け等	学生 2 名
5	11 月 2 日	台風 19 号災害ボランティア	福井県	長野県長野市	泥のかきだし、 家財の片付け等	学生 3 名
6	2 月 8 日	国際小児がんデーに係る活動支援	(公) がんの子どもを守る会	アピタ敦賀	小児がんの 啓発活動	学生 5 名
7	毎月第一・第三 水曜日	こども食堂青空	こども食堂 青空	男女共同参画 センター	学習ボランティア	学生 15 名 (随時)

表 1-2 ボランティア等への参加状況の年次推移（過去 5 年度）

	27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		令和元年度	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	10	77	9	40	10	59	8	163	7	66
教職員	2	13	3	7	1	7	1	6	1	6

2. 地域行事等への参加状況

地域行事等への参加状況及び年次推移を表 2-1、表 2-2 に示しました。

表 2-1 地域行事等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	7月28日	気比神宮の杜フェスタ (荒天中止)	商工会議所青年部	気比神宮周辺	展示及び体験コーナー	学生11名
2	9月3日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ手	学生1名 職員1名
3	7月1日	和田de路地祭	COC+まちづくりWG	高浜町和田地区	和田de路地祭の運営	学生8名 教職員2名
4	12月2日	ふくい学生祭	福井学生祭実行委員会	ハピテラス (福井市)	学生の企画・運営による学生祭	学生1名 (実行委員)

表 2-2 地域行事等への参加状況の年次推移（過去5年度）

	27年度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	5	61	9	61	7	144	4	21	4	21
教職員	3	10	7	10	4	5	2	3	2	3

資料 1

看護研究方法論講座 実施要領

敦賀市立看護大学 地域・在宅ケア研究センター

1. 目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを目指します。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、看護を探究する姿勢を高めることを目指します。
- 3) 研究発表を通して、それぞれの施設の研究課題や看護活動を相互に理解することを目指します。
- 4) 大学と当該施設の良い関係を構築し、当該施設における医療・看護が円滑に行えることを目指します。

2. 対象者

対象者は、敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者としてします。

受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で 20 件程度とします。

3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法の講義・演習を行います。
日時・内容の詳細は別途定めます。
- 2) 本学教員による研究の個人又はグループで指導を希望する方は、研究テーマを決定し、4 月末日までに研究指導申込書を用いて本学に提出して下さい。なお、研究テーマ決定にあたっては相談にも応じます。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を決定します。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究者（本学の倫理審査を受ける権利の保証）として研究をすすめていただきます。
- 5) 研究発表会や学会、論文等で発表していただけることを期待しています。

平成 30 年 12 月改定

資料 2

敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項

1. 目的

研究成果や実践活動を通して、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的とする。

2. 対象者

- 1) 敦賀市及び美浜町の医療・看護・保健・福祉施設等に勤務する者
- 2) 一般市民など

3. 実施方法

- 1) 演題は医療・看護・保健・福祉等に携わる者から公募する。
- 2) 本学の教員は、原則として過去1年間に発表した研究成果を報告する。
- 3) 研究成果や実践内容を口頭発表する。
- 4) 開催は年1回とし、開催時期は秋季とする。
- 5) 報告会の世話人は大学教員が担当する。

令和元年度地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(○センター長、五十音順)

木谷尚美 高橋将（事務局） 野沢和也 ○畑野相子 山崎弘美 横山浩誉

令和元年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

令和 2 年 3 月 31 日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500
